

1 めざす学校像・子ども像・教師像

(1)学校像

学校は子どもたちにとって、明るく元気に楽しく学び、充実した時間を笑顔で過ごせる場であってほしい。また、保護者にとって、安心して我が子を送り出し、共に学びに参加できる場であってほしい。そして、地域にとっては、生涯学習実現の場であると共に、学習や行事等にも積極的に参加し、児童の育成を携わってほしい。地域の中の清水小でありたい。だからこそ、次のスローガンを掲げる。

子どもをど真ん中にして、学校・保護者・地域がかかわり合える学校

(2)子ども像

子どもたちが意欲をもって学び、豊かな社会性を身につけ、心身ともに健やかに成長できるよう、次の児童像を掲げて学校教育を充実させる。

◎よく学ぶ子（重点目標） ○思いやりのある子 ○たくましい子

この3つの教育目標を達成するために、子ども、教職員、保護者・地域に開かれた学校教育・運営を進めていく。

(3)教師像

- ① 「組織に貢献」 ・組織の一員としての役割と責任を自覚し、協働して成果を上げる意識をもつ。
- ② 「教師力の向上」 ・授業力、学級経営力の向上のために研鑽に努めるとともに、互いに学び合う意識をもつ。
- ③ 「挑戦する教師」 ・例年にとらわれず、今、目の前にいる子どもたち一人一人のために、何ができるのかを念頭において、失敗を恐れずにチャレンジする意識をもつ。

2 目標と方策

(1) 学力の向上

① 地域学習の充実

昨年度、創立50周年を終え、新たなスタートである51年目を迎える。昨年度、全学年で、生活科・総合的な学習の時間を中心に地域学習に取り組んできた。地域での教材や人材を活用した単元開発などを行い、子どもたちも意欲的に学習に取り組む姿が多く見られ、地域に視線を向けるようになってきた。それに合わせて、地域との意識の差も明らかになってきた。今後も、地域のつながりを深め、地域愛を育てるためにも、清水小の地域学習を充実させる。

- ・地域学習を行う中で、体験的な活動を積極的に取り入れ、地域素材を活用するようにする。その中で、課題を自分事としてとらえ、自分なりの考えをもち、話し合い活動をする中で、自分の考えを深め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ・児童が見通しをもって主体的に学ぶために、自分自身での「振り返り」を大切にする。

教師がどう児童の振り返りを評価し、次につなげていくかを考えていく。

- ・地域コーディネーターと連携を図り、地域人材をゲストティーチャーとして招集し、学習過程に計画的に意図的に組み込み、子どもたちの学習意欲を向上させ、学ぶ楽しさを実感させる。
- ・課題に対して自分なりの考えをもち、対話（話し合い）を通して、自分の考えを深める学習を行っていく。話し合いの手段として思考ツールを取り入れた授業を実践していく。
- ・川口川、湧水、養蚕、地域の公園、校内の田んぼ、地域の施設等、地域と関わる学習を意図的・計画的に設定することで、自分たちの住む町への愛着を深め、自分が地域の一位であることを意識させる。

② 基礎学力の定着

- ・「はちおうじっ子ミニマム」や学力定着度調査の結果などを活用して、児童の理解度の低い分野領域を明確にして、九九や繰り上がり繰り下がり計算、漢字の読みなど、100%の習熟をめざすものを設定し、業間の活用や放課後の補習で指導をすすめる。
- ・学力調査の結果を全教員で分析・確認をし、児童の学力における課題を再認識し、学校としての学力向上の取組の改善を図り、自己の授業改善にも生かす。
- ・毎週1回の放課後補習では、補習に必要な児童を抽出し実施する。教科は国語と算数を行い、タブレット、ドリルパークや東京ベーシックドリルを活用する。状況に応じて外部人材も活用していく。
- ・家庭学習の進め方や内容を明確にして、家庭学習の習慣化を図る。また、放課後子ども教室の宿題サポート事業との連携などを通して、学校・家庭・地域が一体となって学習習慣を身につけさせる。
- ・校内におけるOJTを強化し、教師力、授業力の向上をめざし、児童の学力向上につなげる。OJT主任を中心にして、1年間継続してOJTに取り組めるように全教職員で協力する。
- ・児童の情報活用能力の育成、ICT等を活用した教育の推進を図る。また、学習用端末を活用し、児童の意欲的な学習につなげる。

(2) 人間力の育成

① 「あいさつ」の励行

- ・コミュニケーション能力を向上させ、人や社会との関わりを強くするためにも「あいさつ」にこだわって指導をする。
- ・自分からあいさつができる子をめざし、生活指導、特活の両面から、具体的な内容を考えて取り組んでいく。その中で相手を意識することも視点として指導を行っていく。
- ・全教職員が率先してあいさつをする姿を見せるとともに、教師、児童共に振り返りを大切にして見通しをもって取り組めるようにする。

② 特別な教科「道徳」の充実

- ・社会でよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ・道徳授業地区公開講座等を活用し、道徳の授業を公開する。

③ いじめや不登校等に組織的かつ迅速に対応する体制の整備

- ・毎週金曜日6hの「ほっとたいむ」を全教職員で取り組み、各クラスの情報を共有することで、いじめの未然防止と早期発見早期解決に向けた取組を組織的に行う。
- ・ほっとたいむ後に学校いじめ対策委員会を毎週1回実施し、組織的にいじめの予防及

び早期発見、組織だった取り組み方、中長期的な見守りを図っていく。また、いじめ発生時には、すぐに学校いじめ対策委員会を招集し、情報収集を行って、組織的に対応する。

- ・ SNSについて考える日を月に1回設定し、メディアリテラシー教育や情報モラル教育を行うことで情報の正しい取り扱いができるようにする。

(3) 特別支援教育の充実

① 校内委員会を中心に、特別支援教育の推進を図る。

- ・ 特別支援コーディネーターと不登校支援コーディネーターを指名し、コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、SCやSSW、子ども家庭支援センター等との関係機関との連携を図り、一人一人の状況に応じた対応のあり方を検討する。
- ・ 特別支援教育研修を実施する。
- ・ 特別支援教室「みのり教室」の巡回指導教員と連携をとり、校内委員会での情報共有や話し合いを通して、特別な支援を要する児童の対応に当たっていく。また、実り教室についての研修会を実施する。

(4) 不登校対策の充実

① 適切かつ迅速に状況把握をおこなう

- ・ 学校いじめ対策委員会、校内委員会に組み込み、コーディネーターを中心に、毎週、予兆も含め、適切に状況把握を行う。また、SCやSSW、子ども家庭支援センター、児童相談所等、関係諸機関等と連携し、家庭への働きかけを行っていく。
- ・ 状況に応じて、八王子市の取り組みである「おにぎり大作戦」についても検討し、取り組んでいく。

② 諦めず取り組む

- ・ 家庭の協力のもと、定期的に連絡をとり、情報を共有して学校として対応していく。まずは突破口となるのは担任であり、ちょっとした変化を見逃さずに見取り、組織的に対応していく。

(4) 家庭・地域との連携をめざして

① 学校運営協議会及びPTCAの活動と連携した学校運営を進める。

- ・ 毎月行われる学校運営協議会で情報を共有し、学校運営について協議し、地域の人々と関わりを深めた教育活動を行い、家庭・地域と一体となって子どもたちの健全育成を推進する。
- ・ PTCAの活動を理解し、連携を図っていく。時間がある場合は活動にも参加し、児童の地域での様子を見るようにする。
- ・ 学校便りやホームページを通じて学校の情報を発信する。

② 保幼・小・中の連携を強化する。

- ・ 小中一貫教育の取組として、中野北小学校、甲ノ原中学校と3校で授業参観、教員交流、防災訓練、合同引き渡し訓練を実施する。地域を愛し、地域に根付いた児童・生徒の育成の具現化を目指す。
- ・ 保幼連携として甲ノ原保育園・なかの幼稚園との連携を深める。1学期には保育園・幼稚園の保育士を対象として、第1学年の授業公開を行い、連携を深める。夏季休業

中の教員同士の交流を実施する。3学期は園児との交流を実施する。

③ ブラスバンド部の活動の充実

- ・学校と地域の架け橋となるよう、地域行事への積極的
- ・地域行事だけでなく、マーチングや吹奏楽フェスティバルなど八王子のイベントにも参加し、活動の場を維持する。
- ・顧問、副顧問を中心に、ブラスバンド部の維持、運営を行っていく。
- ・外部委託についても市教委との交渉を行っていく。

(5) 学校経営・学年学級経営

① 学校経営の向上を図る。

- ・学校経営計画実現のため、教職員一人一人が自分の役割と責任を自覚し、成果を上げる意識で職務に当たるような校務分掌の整備をする。
- ・主幹教諭を中心にして、企画会議を効率的に運用し、学校経営運営のための根幹とする。また、定期的に拡大企画会議を開催し、学校全体の風通しを良くして対応策を協議していく。
- ・教師一人一人の人権意識を高め、職務を遂行していく。言葉遣いには十分に気を付け、授業中において児童に対しては男女関係なく「～さん」づけを徹底する。
- ・教師の同僚性を高め、例年通りではなく、その時に対応して主体的に考え行動できる集団とする。
- ・OJTを積極的に行い、若手教員のさらなる育成を図る。一つ一つの基本的なことをしっかりと学び、全教職員が同じベクトルで学校経営を行っていく。

② 学年・学級経営力の向上を図る

- ・教員一人一人が振り返りを意識し、常に自分の指導や経営を振り返り、次につなげられるようにして、見通しをもつ。
- ・学年会の充実を図り、児童のことや授業の進捗状況、課題や取組など共有を図り、学年全体を見合い指導する。